【下関市総合教育会議議事録】

令和6年度第2回下関市総合教育会議

開催日時	令和7年1月23日(木) 13:30~14:30
開催場所	下関市役所西棟5階大会議室
出席委員の氏名	前田 晋太郎(市長) 磯部 芳規(教育長) 小田 耕一(教育長職務代理者) 吉村 邦彦(教育委員) 佐々木 猛(教育委員) 畚野 美香子(教育委員)
欠席委員の氏名	欠席なし
委員、関係者及び傍聴人を除くほか議場に出席した者の氏名	総合政策部長 岸本 芳郎 教育部長 藤田 信夫 教育部理事(教育部次長) 和田 英一 教育部理事(教育部次長) 藤井 信幸 学校教育専門監 木下 満明 教育部次長(教育政策課長) 門田 重雄 学校教育課長 大坪 勇一 教育指導監(生徒指導推進室長) 中尾 琢磨 教育研修課長 浦野 建太 学校支援課長 栗原 武 学校保健給食課主幹 森本 匡将 生涯学習課長 岡田 清弘 教育部参事(文化財保護課長) 濱崎 真二 教育部次長(中央図書館長) 江原 理恵 美術館長 岡本 正康 歴史博物館長 古城 春樹 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム館長 松下 孝幸 下関商業高等学校長 安村 祥二郎 教育政策課長補佐 吉岡 孝二 教育政策課主任 吉富 守夫
傍聴人の数	1人

次第（目次）

【開会の宣告】	P 3
【市長挨拶】	P 3
【教育長挨拶】	P 3
【協議・調整事項】	
「下関市教育振興基本計画（教育大綱）の進捗状況について」	P 4
【閉会の宣告】	P 1 4

【開会の宣告】

藤田信夫（教育部長）

ただいまから、令和6年度第2回下関市総合教育会議を開催いたします。

初めに、総合教育会議の主催者であります、前田市長に開会の挨拶をお願いいたします。

【市長挨拶】

前田晋太郎（市長）

皆さんこんにちは。大変お忙しい中、教育委員の皆様、お集まりいただきましてありがとうございます。

平素から、本市の行政に大変にお力をいただいておりますし、行事等々、いろいろと復活してきて、お忙しい中ですね本当に感謝しております。

本日の協議事項はですね、「下関市教育振興基本計画（教育大綱）の進捗状況について」となります。これは12月議会で総合計画が議決をされたわけですがこれに関連する第4期の教育振興基本計画案が教育委員会事務局で作成をされました。この計画はこれからの下関の教育の方向を示す大切な計画となります。皆さんと今日は、いろんな、協議の中で意識の共有と市の方向性を出していきたいと思っております。

今、令和7年度の予算の作成作業が一通り終わりました、大体フィックスされたんですけども、引き続き教育にはたっぷりに対応しております。

本当にちょっと前では考えられないぐらいでやっておりますが、一方で子供の数は、もう、諸先生方諸先輩方がいらっしゃるころから、随分と変わって参りまして、それでもやるべきことをしっかりやっていかなくはいけません。また、最近は磯部教育長の不登校の対応で、ずっと非常に数字が苦しかったのですが、随分改善されてきたと聞いています。教育委員の皆様にも、本当によく対応していただいたということと、教育現場の皆さんも本当よく頑張っていたいているという気持ちでおります。

そういったこともいろいろと話したいことがありますけれども先ほど言ったような今日は、しっかりと方向性出していけるように、中身のある会議にしたいなというふうに思っていますので、よろしくをお願いいたします。

以上です。

藤田信夫（教育部長）

前田市長、ありがとうございました。続きまして、教育委員会を代表して、磯部教育長に挨拶をお願いいたします。

【教育長挨拶】

磯部芳規（教育長）

教育委員会を代表いたしましてご挨拶を申し上げます。

今年度、第2回目の総合教育会議となります。本日の協議調整事項でございますが「下関市教育振興基本計画（教育大綱）」の進捗状況となります。

特に、教育理念でございますが現在、またこれから起こり得る様々な課題に対して、しっかりと前を向き、課題に対し、ピンチをチャンスとして考え、乗り越える人材育成や未来を築く、わくわくする仕掛け、下関市の魅力を生かした学校・社会教育を下関市内外へ発信する理念にしたいと考えております。

本日、総合教育会議において、前田市長と教育委員の皆様と意見交換を行わせていただくことで、これからの下関教育を前進させる大変有意義になるものと期待しております。

どうか前田市長におかれましては今後とも格別のご理解とご協力をお願い申し上げます。

どうぞ本日は皆様方よろしくお願い申し上げます。

藤田信夫（教育部長）

ありがとうございました。それでは協議・調整事項に入らせていただきます。
これより、議事の進行は前田市長にお願いいたします。

【協議・調整事項】

下関市教育大綱 下関市教育振興基本計画

前田晋太郎（市長）

それでは協議・調整事項「下関市教育振興基本計画（教育大綱）の進捗状況」に入ります。
まず事務局の方から計画について説明をお願いいたします。

門田重雄（教育部次長（教育政策課長））

教育政策課です。よろしくお願いします。

第4期下関市教育振興基本計画、教育大綱進捗状況についてご報告いたします。

配布資料の、「第4期下関市教育振興基本計画（教育大綱）の進捗状況について」をまずご覧ください。

改めましてでございますが、1.下関市教育振興基本計画についてでございます。

本計画は、教育基本法第17条第2項の規定に基づき、下関市における教育の振興のための施策に関する基本的な計画として、下関市教育委員会が策定する計画でございます。

現行の第3期基本計画の計画期間につきましては、令和2年度から令和6年度までの5年間であり、この度令和7年度から令和11年度までとなる第4期計画の原案について報告するものでございます。

次に、2.教育大綱と教育振興基本計画についてです。

教育大綱につきましては、令和6年7月に開催されました令和6年度第1回総合教育会議において「教育振興基本計画をもって大綱とする」とご協議をいただいているところでございます。

改めて、教育大綱と教育振興基本計画の法律上の位置付けにつきましてご確認をさせていただきますと、策定主体につきましては、教育大綱は地方公共団体の長つまり市長でございます。教育振興基本計画は、地方公共団体となっております。教育振興基本計画につきましては、教育行政を所管する教育委員会において作成しており、教育大綱は総合教育会議において協議をして市長が定めることとなっております。いずれも国の教育振興基本計画を参酌し、地域の実情に応じて、教育の振興に関する計画として策定することとされており、教育大綱は策定が義務となっておりますが、教育振興基本計画の策定は努力義務となっておりますところでございます。

また、教育大綱に関する、文部科学省の考え方として地方自治体が教育振興基本計画を定めている場合には、その中の目標や施策の根本となる方針の部分が、教育大綱として位置づけることができると考えられることから、総合教育会議において教育委員会と協議調整して、基本計画を大綱に代えることができるとしています。

こちらの方が、前回7月の総合教育会議で確認していただいたところでございます。

次に3.の今後の予定です。

本日、次期教育振興基本計画の基本理念を協議していただき、ご確認していただく予定としております。

そして2月中旬の文教厚生委員会において、計画案の報告、その後3月上旬から1ヶ月間、パブリックコメントを実施し、いただいた意見を踏まえ5月の教育委員会定例会において、計画を議決いただきます。

その後、総合教育会議において教育大綱に係る調整を行っていただきまして、6月の文教厚生委員会で報告後、公表する予定でございます。

それでは、市長と教育委員には事務局案、現在の案をお渡ししておりますが、そちらについて説明をいたします。

表に案と書いてあるものでございますが、表紙をめくっていただきますと、最初に目次がございます。本計画は大きく総論と各論に分かれて編成しており、総論では計画策定の趣旨、計画の位置付け、計画期間、基本理念、基本目標など基本的な事項を記載しておりまして、各論では、基本目標ごとに基本方針、主要施策、主な取り組みを整理し、巻末には推進指標を示しているところでございます。

次に、皆様に本日お配りしております、配布資料の2枚目、基本理念（教育理念）案をお願い

いたします。

ここでは計画の基本的な考え方として基本理念を記載しております。これまでの基本理念「夢への挑戦 生き抜く力 胸に誇りと志～学びが好きな子ども、学びのまち下関」を新たに「チャンス チャレンジ クリエイト～未来を拓く一人ひとりの学び」としております。

教育理念の改正につきましては、後程また詳しくご説明させていただきます。

次に、配布資料の3枚目。A3横になっておりますが、Ⅲ 施策体系と書いてあるものをお願いいたします。

本計画に基づく施策体系をまとめております。

一番左に基本理念、その右に基本目標、さらにその右に基本方針を掲載しております。

先ほどの基本理念を具体化するため、何に重点を置いて、基本理念の実現を図っていくかを示すものとして、3つの基本目標を設定いたしました。

また、基本目標を達成する上で、とるべき行動の基本的な方向を示すものとして、基本方針をそれぞれ設定しております。基本目標及び基本方針につきましては、本市の最上位計画であります。第3次下関市総合計画と整合をとっているところでございます。

基本目標Ⅰ「教育の振興を図ります」です。こちらにつきましては、計画書には、課題、基本的な考え方、基本方針を掲載する予定としておりますが、第3期教育振興基本計画では、基本目標Ⅰと基本目標Ⅱを2つ分けておりましたけれども、このたびの第3次総合計画に合わせて、1つの目標としてまとめております。

子供たち一人ひとりが社会の一員であることを自覚し、未来に向けて主体的に生きることができるよう、また、子供たちの成長過程において大きな役割を担っている学校の教育力を高めるために、8つの基本方針を立てているところでございます。

右のページに記載しております基本目標Ⅱ「地域の教育力を高めます」です。家庭や地域のあり方を改めて見直し、人との関わりを重視し、家庭や地域を含めた社会全体の教育力の向上を目指して定めたものです。ここでは、家庭の教育力の向上、学校、家庭、地域が相互に連携強化することを基本方針として立てております。

基本目標Ⅲ、「生涯を通じた学ぶ機会を提供します」です。教育基本法において定められております、生涯学習の理念を受け、いつでもどこでも誰でも学ぶことができることを目指して、図書館の充実、生涯学習の推進、芸術・学術文化活動の推進、文化財保護・活用の推進、人権教育の推進の5つの基本方針を立てております。

次に配布しておりませんが手持ち資料事務局案の11ページをお願いします。お願いいたします。11ページの方では、基本理念を実現するためPDCAサイクルにより、計画の進行管理を行って参りますことを書いております。

次に12ページは、教育の事業の推進にあたって、SDGsを念頭に置いて取り組むこととしておりますので計画案につきましては、現計画に沿って、それぞれの基本方針ごとに該当するSDGsを記載しております。

今後、総合計画の冊子と、また整合性を確認して参りたいと考えております。

次に13ページです。本計画の基本目標を実現するために、事件や事故、自然災害や感染症等子供たちを取り巻く様々な事態への対応が求められることから、安全管理等を組織的に実施いたします。

次に14ページからは各論に入りますが、個別の説明は省略させていただきます。基本目標ごとに基本方針の説明、主要施策の説明があり、すべての主要施策について主な取り組みを紹介しているところでございます。

最後に、本計画の進行管理を充実するための推進指標を43ページの方に示しておりまして、この推進指標につきましては、第3次総合計画にも掲載しております。

推進指標及び新たな推進指標及び現計画の推進指標の一部を引き続き掲載しており、本計画に定めた施策を確実に実施し、その施策を点検評価し、必要に応じて改善を図ることが重要であることから、引き続き、毎年、施策の点検評価を行い、計画の適切な進行管理を行って参りたいと考えております。

第4期下関市教育振興基本計画案についての進捗状況の報告は以上でございます。

それでは、基本理念を解説させていただきます。

配布資料の2枚目に戻っていただきまして基本理念をお願いいたします。

基本理念「CHANCE（可能性） CHALLENGE（挑戦） CREATE（創造） ～未来を拓く 一人ひとりの学び～」ということで、解説文を読みます。

教育基本法では、教育の目的を第一条で「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」と規定しております。そこで、下関市教育委員会では、関係主体が共有する価値感、普遍的な大命題としての基本理念を上記として掲げ、教育のさらなる充実発展に努めて参ります。

3つのC。

CHANCE（可能性） 市民一人ひとりに可能性があります。生涯にわたって、あらゆる機会があります。その可能性を活かしていく、まずは前向きな気持ちを抱きます。

CHALLENGE（挑戦） 可能性に挑戦する。どんな未来がやってくるか。わくわくドキドキする気持ち。その挑戦を教育が、どんな形でどんな声が育てていくのか。

CREATE（創造） 挑戦の先には創造が待っています。新しい何かが生まれる。気持ち、行動、目に見えるもの、目に見えないものすべて、今は小さな創造も、いつかは化学反応が始まり、大きな創造へと続きます。

豊かな人生を送ることができるよう教育を行わなければなりません。CREATEが新たなCHANCEを生み、次へのCHALLENGEへとつながります。

創造のサイクルが未来を拓く一人ひとりの学びにより実現するよう取り組んで参ります。

この資料の裏に、基本理念のイメージ図を掲載しております。この基本理念の学びを中心とする、サイクルというイメージで、現在こういうイメージを持って、基本理念を作っているところでございます。

以上が基本理念の解説となります。

前田晋太郎（市長）

ありがとうございました。

これまでの基本理念がもう10年経過します。それで時代も変わりましたし、そろそろ新しいことにチャレンジしてもいいのではないかなというところで、今回これがついているわけですが、この基本理念については、まず、積極的に皆さんからご意見をいただければというふうに思います。

少し経緯というか、私からも少し話しますと、教育長が「わくわく」という言葉を使ってこの1、2年間やっていただいて、先ほど言ったように、不登校の数が少し改善されてきました。学校ってやっぱり楽しくあるべきだなというのはすごく、特に最近強く思います。また子供たちの目線に立ってみたり、また今の時代背景を考えてみたりしたところ、行政の考え方で作っていくと、なんかすごくカチコチの言葉になってしまって、子供たちになかなか響かないのではないかなというちょっと私の思いがあって、やっぱり少し横文字というか、これまでの既成概念から少し離れて、幾つかある選択肢の中で、この「CHANCE（可能性） CHALLENGE（挑戦） CREATE（創造）」って、これはいいのではないかってことで、議題へ今回挙げさせてもらいました。自分の思いとしてはそれが1つあります。

確認ですが、少し加えたり、削ったりするということをして今日しても大丈夫ですね。

門田重雄（教育部次長（教育政策課長））

はい大丈夫です。

前田晋太郎（市長）

私も8年間市長をして、この総合教育会議を何度も経験しました。そもそもここで市長と教育委員会の皆さんとここでもんでいくわけだから、決めていいんですよ。

今日、これを変えることで何かあとでずれていくということはあるですか。

門田重雄（教育部次長（教育政策課長））

問題ありません。

前田晋太郎（市長）

大丈夫ですね。

私は、やっぱり子供たちが故郷下関を意識しているかと私は20歳の集いでも言いました。はたして、この故郷ということ認識しながら生きてくれているかな、学んでくれているかなっ

ていうのはすごく最近強く強く思うんです。だから20歳の場面だけじゃなくて、子供たちにずっと訴えていこうと思っています。でも親に任せてもいけないと、正直もう、もう我々がやっていくしかないなっていうぐらいの気構えでやっていこうと思っています。親はもう、「君たちの好きなように生きてね」、「どこいったっていいよ」って言っているわけですけど、それじゃないなって僕は思っている。この「故郷」という言葉を加えたかったなっていうのが1つ感じます。現教育理念に、故郷という言葉を一説入れませんかというところがよく考えたら始まった話でもあったので、その一番大事なところちょっと忘れていたのですが、例えば、「故郷を想い未来を拓く」とかにしてみてもいいかなと思います。

門田重雄（教育部次長（教育政策課長））
副題のところですね。

前田晋太郎（市長）。

そうです。主題の3つはいいとこいつているかなと思います。

例えば先日、北九州で殺傷事件ありましたけど、やっぱりあんな若くして命を落とすようなことがやっぱりあってはならないんですね。私たち地元を与える影響ってものすごく大きいと思います。お隣の北九州でもあれだけ影響があったんだから。

だから、もうちょっと「命」という言葉とか、例えば命という言葉を入れるイメージとか、そういうことを副題がもう少しそういう要素を積んでいけるといいかなっていうのが僕の中で今思っているのでもっとその点を含めて、皆さんにご意見がいただきたいなと思っています。

基本理念がそういうことで、あと施策体系の中で、少し違和感あるのが基本目標の部分のところ「I教育の振興を図ります」のこの、まず調が何か変なふうに感じます。それまでは全部その名詞、体言止めで表現していて、ここだけまず調になっているのがちょっと違和感を感じています。目標なので文章はいけないってことではないのですが、それが少し違和感があったかなと思います。私の意見はそれぐらいです。

では、意見があったら、ぜひはい、はいどうぞ吉村委員。

吉村邦彦（教育委員）

はい説明ありがとうございます。

我々も、今市長が言われたように「ふるさと」と言うか「故郷」と言うか、この言葉はまた選択しなければいけないと思うのですが、この「CHANCE（可能性） CHALLENGE（挑戦） CREATE（創造）」っていうところで言うと今もう、だれが何と言ってもグローバル社会になってきている中で子供たちに、こういうふうな、子供たち目線で言うとバズる言葉の方が浸透しやすいのかなっていうふうに思いますし、あともう1つはですねやはり、これ我々、大人が知っていることだけじゃなくて、下関の教育理念っていうのは、こういう言葉が子供たち、それからあと地域の皆さんにもわかってもらえるっていうことで言うと、非常にわかりやすいのかなと思うし、ことあるごとに市長が言われている「ふるさと下関」、たとえグローバルで世界に出て行っても、やはりどこか戻るところがある。気になることがある気にしたくなる。何かを見つけたときには、我がふるさとの話だよなっていうふうな、話題になるっていうことが非常に大事なのかなというふうに思います。個人的に思うのが九州の方って、都会に出ても、「どこ」の出身って聞かれると「熊本」って答えると「九州やんか」って盛り上がる。でも、山口県の人って意外に「山口」っていったら「山口のどこ。俺は下関なんだよね」って話になる。そこで下関の人間だったらちょっと一緒に何かという、そういう本当に、この下関ふるさとを思う気持ちをもっともっと強くしてもらいたいなっていう気持ちはあります。

思いとしてはですねやはり、市長言われたように「ふるさと」とか、「故郷」とかっていうふうな言葉が必要なかなと思います。あと、この3つのCの説明のところはですねもう少しかみ砕いて、1文とか2文ぐらいで、子供たちでもこういうことだっていうのがわかるような文言にされた方がいいのではないかなというふうに思います。

前田晋太郎（市長）

それはどこの話ですか。「CHANCE（可能性） CHALLENGE（挑戦） CREATE（創造）」のことですか。

吉村邦彦（教育委員）

CHANCEの説明、CHALLENGEの説明、CREATEの説明の部分です。
他の部分も言っているのですか。

前田晋太郎（市長）

どうぞ。

吉村邦彦（教育委員）

先ほどの中にありました基本目標の「地域の教育力を高めます」というところで言うと、今からはやはり地域との連携とか地域に関わることってというのは非常に重要になってくると思うのでこの項目はもう少し、厚みを持たせたほうがいいのではないかなというふうに感じました。

前田晋太郎（市長）

厚みで言うと、基本方針の厚みですか。

吉村邦彦（教育委員）

そうですね基本方針の厚みですね。教育の振興のところは①から⑧、それから生涯学習も①から⑤ですけど、地域との関わりは①、②です。ここはもう少し厚くなれば良いかと思います。だから教育の振興のところから、こっちの地域との関わりに、多少ダブるものもあっていいのではないかなって思います。地域の方を巻き込むってということも踏まえて考えていいのではないかなというふうに思います。

前田晋太郎（市長）

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。畚野委員どうぞ。

畚野美香子（教育委員）

どうもありがとうございます。

基本理念に関して昨日もちよっとお話をしたのですけれども、「CHANCE（可能性） CHALLENGE（挑戦） CREATE（創造）」というこの3つの言葉に関して、下関のこれからの明るい未来に果敢に取り組んでいくという決意、それに一人ひとりの学びを尊重しサポートしているという思いが、短い単語でありながら、見ただけで想像ができるということで、大変インパクトがある基本理念かなというふうに思います。

この部分に関して今、現行の基本理念を、保護者で知っている人が果たしてどのくらい、いるのかなってというのは、私もつい2年前までは普通に保護者としておりましたので、そこまでこをじゃあ覚えてるかという覚えていない。やっぱりこれから地域、学校それから子供たち、家庭のすべてをひっくるめて活動していくというふうに下関が考えておられるならば、その保護者とか子供に対しても、こういった基本理念っていうのを浸透していくということも大事なかなと思いました。

こう見てみると3つのCっていうのは大変覚えやすく1度聞いたら、リズムもいいので、耳に残るので、これはすごくいいなというふうに思いました。

サブタイトルの未来を拓くっていう部分になってくるのですが、これを例えば市長が先ほどおっしゃっていましたが、「故郷」もですが、下関って言葉をいれる。グローバルのこの時代に下関って言葉を入れるのもどうかともあったのですが、やっぱり下関という言葉を入れて、せっかくいい言葉が16ページのふるさと学習推進にあります、豊かな心の育成の中ですね。②ふるさと学習推進のところ、に「ふるさと下関に対する誇りと愛情を育む」というふうな良い言葉が出てきていて、これを使って「下関に誇りと愛情を」という言葉を入れるのはどうかというふうに私は考えました。

サブタイトルが「下関に誇りと愛情を 一人ひとりの学び」。ダイレクトに「下関」という言葉を、もう出してしまっちょっと覆い隠さずに、表に出してくる。もし、下関っていうのがあれだったら「故郷下関に誇りと愛情を」という言葉にしてしまうっていうのも、気持ちが隠さずに現れているっていうストレートに表すのもいいのかなと思いました。

そういうことで、子供たちが下関市内あるいは県外、国外で働いているという活躍されていても、その下関ふるさとを誇りに思っ自慢ができるように、そして下関のために働こうと思っ

いただけるような思いを込めて、こちらの方の提案をします。

前田晋太郎（市長）

ありがとうございます。なんか事前に打ち合わせをしたのではないかっていうぐらい、呼吸のあったコメントをいただきましたけど、私も事務方の会議ではね、その故郷のことを言い忘れていたんだけど、今、言っとかなきゃなって思って言ったんですけど、今ずっとこう見ている中で見つけられたんですか。

畚野美香子（教育委員）

ずっとこう見ている中でやはり市長の思いとそれから、市の職員の方々がそのふるさとの学習の推進っていうのを新しく入れておられ、また子供たちが地域のためにボランティアとかそういったもので、地域を盛り上げていきたいというのも保護者のアンケートで入っていました。またボランティアをして盛り上げていきたいという言葉も入っていたので、そういった思いを入れていくと、このふるさとの学習の推進という文章読んでいたら、この言葉しかあてはまらないと思いました。

前田晋太郎（市長）

素晴らしい。もう一度確認して良いですか。

畚野美香子（教育委員）

「ふるさと下関に誇りと愛情」。

前田晋太郎（市長）

すごくいいと思います。

教育理念の「CHANCE（可能性） CHALLENGE（挑戦） CREATE（創造）」でさっきリズムもいいっていう、今の時勢に合っていると、まさに吉村さん、畚野さん、私もそこ同感で、このリズム感っていうのはすごく大事だと思います。これは、1つ新しいチャレンジかなと思いますし、そうすると、この3つの言葉の3Cが、リズムがいいので、この副題の方は、文章的というか、少しどっしりとしたものでも十分いいと思うので、だから「ふるさと下関 誇りと愛情」を入れて、「未来を拓く一人ひとりの学び」で随分厚みが出るというか、良いと思いますかどうか。

はい、小田委員。

小田耕一（教育委員）

昨日、教育委員会定例会が会議ありまして、そのあとにまた、教育委員少し残って雑談も含めて話合いをしました。インパクトがあるとか、わかりやすいとか、伝わりやすいとか、印象に残りやすいとか、そういったようなものが3Cにはあって効果があるという話になりました。

それから「ふるさと」についても、話をする中で、ふるさととは心の拠り所であるという。下関にいななければいけないとか、そういうことではなくて、活動する場面はどこであっても心の拠り所としてふるさとを想い続けるそういう意味合いが大事なのではないかという話を他の委員さんから聞かせてもらって私も納得したところです。前回の総合教育会議でも市長がそのようにおっしゃられた気がしています。

前田晋太郎（市長）

ありがとうございます。どうぞ佐々木委員。

佐々木猛（教育委員）

皆さんおっしゃられるとおりの基本理念については私も素晴らしいなと思います。

先程吉村委員がおっしゃられていましたが、「CHANCE（可能性） CHALLENGE（挑戦） CREATE（創造）」の文章と、この図が何かつながるような、最終的にチャンスがあってチャレンジがあって、クリエイトがあって、またチャンスに戻ってチャレンジあってクリエイトがあってこの回転をもって、子供たちが、また私たちみんなが、成長していくよってという姿が、どこかに最後にでも書いていただいたら、せっかくのこのサークルっていうのが生きてく

るのではないかなというふうに思いました。

また吉村委員さんおっしゃられた、基本目標の2の部分ですね。厚みを持たせて欲しいという部分では、私も同感で、学校、家庭、地域と連携強化だけでなくやっぱり家庭教育力っていうのは必ず今必要になっています。

この文言の1つで言うと、基本目標Ⅰの、基本方針⑥の学校組織力の向上の①。これにおいても、おそらく学校、家庭、地域の連携強化の1つにはなってくるだろうと思いますし、不登校問題のところの、保護者における相談の場を設けるっていうところにおいては、家庭教育力の向上に入っていくところにはなってくるだろうというふうにも思いますので、ちょっとこの辺は私ももっと厚みを持たせてどんどんやっていただけたらなというふうに思います。それとともに、ふるさと学習の推進では、先ほど畚野委員のお話があったように、今の生涯学習課では、参加ではなく子供たちの参画ということで、地域とともに学んでいて、ふるさとを愛するっていうところを、非常にやっているところがあると思います。

その部分をもっともっと強調して出していくっていうのも、面白い施策なのかなというふうに思いました。

以上です。

前田晋太郎（市長）

はい。ありがとうございます。どうぞ吉村委員。

吉村邦彦（教育委員）

この理念というのはやはり、企業で言うと、会社の方向性を導くものであって、何か障害にぶち当たったときに、疑問に思ったとき、悩んだときに戻ってくる場所。方向性を導く言葉だと思いますので、小学生であれば小学生。幼稚園児には難しいかもしれませんが、小学生中学生高校生大学生、大人、ご年配の方々、市民皆さんが該当すると思います。当然生涯学習も入っていますので、その場合に、この「CHANCE（可能性） CHALLENGE（挑戦） CREATE（創造）」のその先に見える人物像というか、下関市としてそれぞれの年代でどういう、この言葉の中に秘められたものがあるのかっていうふうなことを、サブのサブのコメントだと思うんですけど、1つ1つの言葉の中に、人物が思い浮かぶようなものになっていけばいいかなというふうに思います。

以上です。

前田晋太郎（市長）

とてもいい意見が皆さんからいただけております。ありがとうございます。

理念は大体こう見えてきたかなあとという厚みがすごく出てきたと思います。

まずそれを実際言葉に表記して、このような形に整えてみて、皆さんで見たときに、またイメージがいろいろ新しく湧いてくるし、子供たちの受けとめもまたさらに深まっていくかなと思っております。

別紙の基本目標の方の厚みの話でした。これは例えば1が家庭の教育力を向上で2、3と追加していくこととか、もしくはこの1と2の中で、主要施策を、球数を増やしていくとそういうイメージで対応できますかね。少し考えて下さい。

この会議で、この理念も施策体系に対する意見も、新しく出したもの、でき上がったものを、今日の会議を反映させてもらって、紙で見せてもらう。それをある程度こちらにお任せいただくという形で、よろしいですかね。どういう方法をイメージしていますか。

門田重雄（教育部次長（教育政策課長））

ここで案をいただきまして、これをまず、パブリックコメントの方にもまだまだかけていきますので、その中でいろんな意見をいただきますけれども、やはり基本理念というところは、あまり、意見ごとによれるっていうのは好ましくないと思います。解説の方の、今の話、こういうものをわかりやすくしてもらいたいというようなご意見だと思いますけれども、それについてはまた、こう変えたものを皆さんにお示しする準備ができますし、施策の厚みっていうものをあげていくっていうのは具体的にこれからの作業ですけど、この基本理念っていうところがぶれないために、皆さんにまとめていただくというか方向を確認していただければとありがたいなと思います。

前田晋太郎（市長）

そうすると、今日はそこまでやりますかね。

ですから、畚野委員からいただいた、「ふるさと下関に誇りと愛情を未来を拓く一人ひとりの学び」「誇りと愛情を」じゃなく、「愛情」で止めてしまって、1マス開けて、「未来を拓く」ということになるんですかね。今言っていたいただいたご意見を反映させると。違いますか。

門田重雄（教育部次長（教育政策課長））

「未来を拓く」をとるかどうかっていう確認をしていただければと思います。

前田晋太郎（市長）

ここは取るんですしたかね。

畚野美香子（教育委員）

あってもいいと思います。当然大事なことなので。話合えれば良いかと思います。

前田晋太郎（市長）

どうぞ吉村委員。

吉村邦彦（教育委員）

可能性と挑戦と創造ですから、「未来を拓く」という言葉は適切だと思います。

前田晋太郎（市長）

そうですね。そこをあえて削る意味はないかなと思います。

皆さん、ちょっと自分の手元で書いてもらっていいですか。もう一度皆さんと確認します。事務局的には長さの問題はないで良いですね。

門田重雄（教育部次長（教育政策課長））

問題ありません。

前田晋太郎（市長）

「ふるさと下関に誇りと愛情 未来を拓く 一人ひとりの学び」で皆さんよろしいですか。

（教育長、教育委員（はい。））

前田晋太郎（市長）

次の工程はパブリックコメントになるのでしょうか。

門田重雄（教育部次長（教育政策課長））

そのとおりです。文教厚生委員会に報告した後に行います。

前田晋太郎（市長）

そうするとあとこの解説文については少し加える必要が出てきますよね。

この3つのCのところの段落は、もうこのままで、その下から少し厚みが出る感じになりますね。

門田重雄（教育部次長（教育政策課長））

3つのCも今、先ほどの意見で、かみ砕いてわかりやすくっていうのを検討する話だと思います。

前田晋太郎（市長）

検討してもらって1枚でもはみ出しても良いですね。皆さんよろしいですか。

（教育長、教育委員（はい。））

前田晋太郎（市長）

はいありがとうございます。それでは、会議の流れって言うと、いったんここまでですね。

門田重雄（教育部次長（教育政策課長））

そうですね。今、この教育理念を進めていくというところまで決めていただきました。詳細は私どもの方で変えていくという話なので、これで今日の大きなところは終わりました。

その他、何か、今の理念を受けて、施策の中で、もし、ご意見があれば、この体系の中で今の厚くしてもらいたいという意見以外があればお願いします。

前田晋太郎（市長）

どうぞ吉村委員。

吉村邦彦（教育委員）

すべて大事で重要なことだと思います。それぞれ点数をつけていかなければいけない時期が来ると思うんですけども、達成度に対して、例えば、市長の中で、この施策のでもいいですし、基本方針の中でやはりここだけはやっぱり、1から4まであるけどこれ、市長としては、先ほど言った例えば、今言う基本方針の1の教育の振興の中で言うと2の豊かな心の育成のふるさと学習の推進という、ここはちょっと、絶対だよねっていうふうなものが何か細かいリテールのところは別にしても、お題目だけ見て、何かこう、ヒントをいただけたらなというふうに思います。

前田晋太郎（市長）

教育1つでも幅がものすごくあるから、即座にということなかなか難しいところあるんですけど、例えば、学校が楽しいとか、勉強が面白くなってきたとか、要は登校に対する子供たちの心っていうのは、教室の雰囲気とか人間関係とか、先生との関係とかっていう、ソフトの部分もちろん一番大切なことですけども、僕は実はその学校のハード面に対して、本当に傷んでいるボロボロの学校だったり、危ないところがむき出しになっていたり、水をひねったら飲んだら駄目とか、そういうハード的な要素が、気づかないうちに子供たちの心を少し、何て言うか暗い方向に、持って行ってしまっていないかという不安をずっと議員のときから持っていて、特にうちの地元の文洋中学校とかそうなんですけど、なんていうか社会の順番っていうか要は耐震化しないから、廃校の可能性があるから、もう耐震もしないしそういう設備も後回しになっているわけですよね。だけど子供たちがそんな理由は、一切わからないわけです。さっき最初の僕が、懸念していたこのやる気に対する意識の低下みたいなのがすごくわかったから、8年前、市長就任したとき本当にお金なかったんですけど、教育には次元の違う考え方でやっていくんだと、危険箇所全部挙げてこいって、校長会議で言ったのよく覚えているんですけど。やっぱり、その部分はいまだに全く変わってなくて、ずっとやり続けていきたいなというふうに思っているんですね。

それが、ハード面の1つ。だから私は新品のピカピカのものをじゅうたんのある学校を与えようと思ってないんです。

今の目の前が、この空間や映像が適切かどうか。華美ではなく、そして危険でもないというね。それが僕は学校の子供たちに与える適切な空間だと思っているので、それが学習意欲とか登校に対する意欲とかにもつながっていくと思っているので、信じているので、これをやってきたし、やっていく、これからですね。

だから、そういう方向がある中で、こういった政策目標が、適切に行っているかというのは、1つの判断基準というか考え方としてね。

ちょっとはみ出していくこととすれば、例えば、図書館の充実。だから、学校司書を、最初0人でお金ないから、10人ふやすのにもうヒーヒー言っって、1人200万ちょっとだから大体、2500万ぐらい最初予算化したんです。よく覚えています8年前ね、波佐間教育長のときでした。これを、今10人が20人にしたんですけど、もう一声ってこの間議会で言われたんですね。

藤田信夫（教育部長）

議会から言われているのは倍の数です。

交付税措置がそのぐらい整備されているからという話で、そのぐらいはということですよ。

前田晋太郎（市長）

それもやってもいいかなって思っています。だからさっき言ったのは、これ、すごく大事なポイントなんですけど、この目の前の空間、目の前の映像が適切かどうか。華美でもなく、危険でもない。

だからそれを基に、ぜひ皆さんこれからいろんな現場に足を運びながら情報をストックしてこういった会議の場を出していただきたいなっていうふうに思っています。

その辺のバランスが取れてくると、絶対子供たちも、元気になってくるし、元気な顔を見て、先生たちも絶対元気になってくるし、そこのバランスが取れてくれば我々も仕事が楽しくなってくるっていうね。もう世の中って絶対そうなっていると思います。間違いありません。

また学校給食もそうですね。今回、新しいまた公約で、この4年間ですね。いろいろなものを見て、聞いてきましたけど、人間ってこの環境が変わるとまた違う意見が出てくるわけですよ。エアコンつけて、学校給食センター巨大な1個作ったら、今度は個別の給食室のおばちゃんから、もうエアコンぐらいつけてくれと来るわけですよ。「もう私は最大に我慢してきとる」と。そういう声とか今度反映させたりするんですけど、そういうことを1個1個やっていけば、もう少しまだまだ子供たちの登校率とか、点数の向上とかは絶対に返ってくると思うんで、あとそこに、教育長と市長が旗振ってまず校長先生にここに反応してもらわないといけないし、校長先生がちゃんと学校で教頭先生としっかり連携できて、そして先生たちにそれをきちんと伝えてそれができるかが今からの課題ですね。でも口で言うよりもう雰囲気変わってくれば、やっぱり下関の教育は頑張ってくれているな、俺も頑張ろうかな私も頑張ろうかなと。そういうことで、変わってくると思います。

すみませんちょっと長くなりましたけど、私の思いです。

吉村邦彦（教育委員）

ありがとうございます。

先ほど市長が言われたようにやっぱり学校楽しいとか面白いとかということってすごく大事ですよ、僕らは変な話で、勉強はしなかったけど学校行くのが楽しくて仕方がないっていう。

なんであんな熱があるのに学校行っているのみたいなぐらいのこと言われていたのを今ちょっと思い出したんですけども。やはりハードもそうですしソフトもそうですし、それからやはり、下関市は幼稚園、小学校、中学校、高校、大学と市立っているものがあるので、ここはもうこの5つの教育、がすべて連携していくって言うことで言うと、今大学もいろいろ設備とか新しい学科ができたり、下商も前に進もうとしていますし、小学校中学校も、いろんな設備、それからハードソフト、いろんなことで、市長が今お話しいただいたことになっています。

あと幼稚園の方は、かなり遅れていますけども、これはやはりこんな言葉使っていいかわかりませんが行政の違いというところから、遅れているところがあるので、やはり幼稚園の方もいろんな設備、それからハードソフト、この辺りも、この教育委員会とはちょっと違うかもしれないんですけども、やはりそこは少し手をかけていかなければ、幼児教育って非常に大事だと思いますので、いけないところかなっていうふうに思っています。

そういうことを考えるときにやはり市長が先ほど言われた本当に、下関でよかったなって思えるような、いろいろ給食費のこともいろいろ考えていただいていますし、いろんなことを今からチャレンジしていただく準備ができつつありますけども、なかなか予算の関係とか補助金の問題とか、いろんなことが足かせになっているところもありますのでぜひ、我々も協力しながらやっていきたいと思っています。

前田晋太郎（市長）

1個思い出したことがあります。昨日夜の会合で学校給食に調理した一部加工したものを納めている業者の社長さんがいらっしゃって、それで僕のとこ来て良い話をしてくれた後に「そういえば物価高騰すごいよ。それはもう市長もわかっていると思うけど」と言っていました。我々が給食費を1回半額にしたのが、もうすぐ1年半、もうすぐ丸2年経つでしょう。

これで結構何かこうほっとしたっていうか、いったんやってきたからちょっと大丈夫かなと思ったけど時間は早くて、あっという間に1年半、2年が経過しました。

藤田信夫（教育部長）

半額始めたのは令和4年2学期からです。

前田晋太郎（市長）

やっぱ2年ですね。もう追いつかなくなっているんじゃないかなと思っていてですね。実際そんな感じですか。実際厳しいでしょ。

森本匡将（学校保健給食課主幹）

はい。少し厳しい状況にあります。

前田晋太郎（市長）

でもこの春は対応、そこに対応した要求は財政部してないですよ。

森本匡将（学校保健給食課主幹）

はい。今年度は流用対応いたしました。

前田晋太郎（市長）

もうちょっと考えたほうがいいかもしれませんね。

選挙が終わったら1発目6月補正ですけど、これは今までの6月の補正とはちょっと違うステージですからね。もうこの一、二ヶ月考えた結果、もう1回要求するというのは緊急性があるということで僕ありだと思えます。その全額にするというのは完全無償の話はちょっと別ですからね。

はいそれでは今日はすごく大切なところで、基本理念が、いい形になったと思えますので、それを自信持って世に出していきましょう。議会とパブリックコメントを受けて、また皆さんのお手元に届くようになりますけど、よろしく願いいたします。

はいではこれで終わりたいと思います。

今日はどうもお疲れ様でした。ありがとうございました。

（全員（ありがとうございました。））

【閉会の宣告】

藤田信夫（教育部長）

それでは以上をもちまして、令和6年度第2回総合教育会議を終了いたします。大変お疲れ様でした。